

北上川のうつりかわり（改修の歴史とわたしたちの暮らし）を調べよう

自然の脅威(洪水)と人間の力(大工事)の、偉大さを知る!

活動概要

飯野川第二小学校の約1km北西を流れる大河北上川は、昔から氾濫を繰り返すとともに、江戸時代には伊達政宗によって、新田開発と治水の対象となっていた川です。

江戸時代初めの伊達相模宗直や川村孫兵衛、そして、大正元年から14年間にわたる北上川(当時の新北上川)の、国による工事を知ることは、地域の歴史を知ることであり、子どもたちの郷土を愛する心を、育むことにつながると考えます。

学校名	宮城県石巻市立飯野川第二小学校
活動場所	教室および北上川周辺(学校から約1km、見学地まではバスで移動)
対象学年	4年生
科目	社会および総合的な学習の時間の活動として実施
所要時間	45分×17時間



学習のねらい

本学習は、社会13時間と総合的な学習の時間4時間を使い、活動しました。

本学習では、川がなぜ新たに掘られたかを考え理解するとともに、当時の工事の様子や現在ある施設(北上大堰や北上川分流施設など)を調べることで、北上川が果たしている役割や、それをつくった人々の苦労や願いを理解することをねらいとしています。

(参考)

右の地図A(柳津)B(飯野川)間は、江戸慶長以前に流れていたという説と流れていなかったという説があります。

伊達政宗の家臣の川村孫兵衛の改修では、AB間を完全に遮断してC方面に流しています。現在流れているAB間は、明治43年の大洪水が発端となり開削(山野を切り開いて運河を通すこと)された川です。

約10キロメートルに及ぶ大河の開削は、国の工事としてもまれにみる大工事だったと思います。

明治以降～現在の流路



実践例

活動を行うにあたって

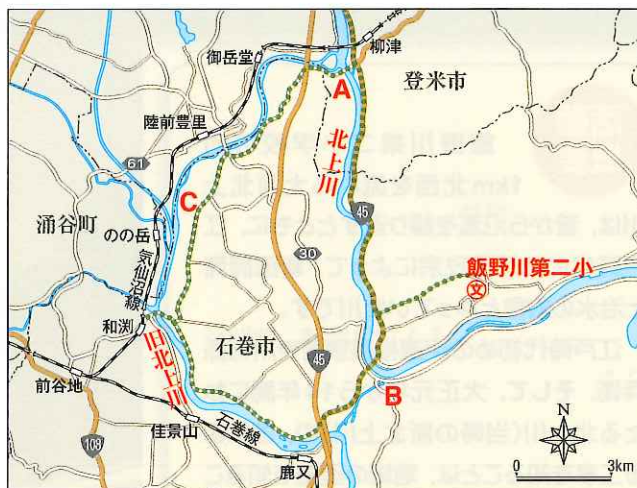


P プログラム内容

本学習では、9月～10月に以下の活動を行いました。

「北上川史跡めぐりをしよう」は移動見学になりますが、子どもたちの日々のリズムを崩さないようにするため、当日は給食の時間までに学校に戻り、5時限目に見学したことのまとめを行いました。

活動1 1時間	北上川を調べよう
活動2 4時間	2枚の地図を比べよう
活動3 5時間	北上川史跡めぐりをしよう
活動4 1時間	北上川と私たちの関連を話し合おう
活動5 4時間	北上川新聞をつくろう
活動6 1時間	新聞発表会をしよう
1時間	まとめ



使用した道具

- ・90年ほど前の地図、現在の5万分の1の地図
- ・地域や川に関する参考書（市版の社会科副読本『わたしたちの石巻』と自作の副読本『北上川と飯野川地区とのかかわり』を使用）
- ・移動用のバス（河川整備基金からの助成などを活用して貸切バスを用意）

活動時期

- ・9月～10月に実施（北上川史跡めぐりは10月上旬に実施）

参加した児童数

- ・4年生 14名

活動場所

- ・学校から1km離れた北上川の周辺（見学地まではバスで移動）

スタッフの手配

「北上川史跡めぐり」の際は、国土交通省の北上川下流河川事務所飯野川出張所の方（以下、「河川事務所の方」という）3名に北上川分流施設の説明をしていただきました。

現地地下見

危険が少ない活動のため、下見は行いませんでした。

ただし、北上川分流施設の見学に先立ち、新旧脇谷閘門・洗堰、新旧鴉波洗堰の役割について、河川事務所の方の説明をしていただきました。

活動内容

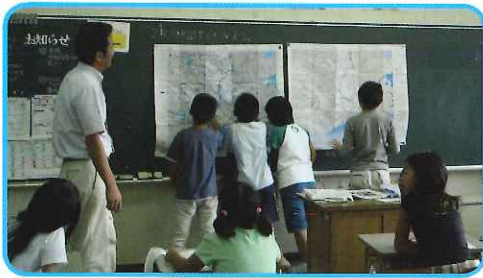


活動1 ～北上川を調べよう～

- ・活動の導入として、北上川絵地図やインターネットを使って、北上川の上流から下流までの流路や、流域の地形等を調べました。
- ・大事なところに関しては、教師がプロジェクターで説明するようにしました。



活動2 ～2枚の地図を比べよう～



↑ 2枚の違いはどこかな？



↑ 明治43年の大洪水(河北公民館提供)

- 大正14年の5万分の1の地図と平成15年の地図を比較し、北上川に関して違う点を話し合いました。
- 違う点として、「柳津・飯野川間の北上川が大正14年の地図にはないこと」、「現在田んぼになっているところが湖沼だったこと」などの意見がでました。
- 次に、この違いの原因を考えました。
- 「柳津・飯野川間の北上川が大正14年の地図にはないこと」については、児童に飯野川を襲った「明治43年の大洪水」の写真を見せることで、洪水を防ぐために北上川が開削されたためだと気づかせました。
- 「現在田んぼになっているところが湖沼だったこと」については、太古からの北上川氾濫で湖沼ができた可能性があることを説明しました。



活動3 ～北上川史跡めぐりをしよう～



↑ 北上川分流施設：碓波洗堰の見学

- 活動2で学習したことをもとに、実際に北上川の史跡を見学しました。
- 見学に際しては、河川事務所の方に説明をお願いしました。
- 見学では「お鶴明神」「北上川分流施設」「菅原寅吉碑」「三川合流地点」の見学を行いました。北上川分流施設では、サケ漁の見学も行いました。
- 見学によって、児童は、治水や新田開発のために犠牲になった人々の存在や、治水や舟運の工事をする人々の苦労を肌で感じることができました。
- 見学は、児童の日々のリズムを考慮して午前中に終わるようにしました。5時限目には学校で、見学してわかったことを発表しました。

実践例



活動4 ～北上川と私たちの関連を話し合おう～



↑ 雄大な北上川

- 教師自作のテキスト『北上川と飯野川地区とのかかわり』を読みながら、昔から続いてきた北上川と地域とのかかわりを話し合いました。
- その後、現在の北上川と地域とのかかわりを話し合いました。



活動5 ～北上川新聞をつくろう～



- これまで学習したことをもとに、「北上川新聞」をつくりました。
- 4年生という発達段階の学年であることや、4時間という限られた時間設定から、3～4名のグループで分担しながら新聞をつくることにしました。



活動6 ～新聞発表会をしよう～



- グループごとに新聞発表会を行いました。
- 一生懸命調べてつくった新聞の発表だけに、発表を終えた子どもたちはとても満足した様子でした。

まとめ



活動による効果

- はじめに子どもたちは、インターネットに慣れるとともに、5万分の1の地図が読めるようになりました。
- 次に昔の地図と今の地図の比較では、子どもたちは両方の地図の違いにすぐ気づいたものの、なぜ今の地図に北上川があるのかが、なかなか理解できませんでした。明治43年の大洪水の写真から想像することで、“北上川の開削”を導き出すことができました。
- 5箇所の史跡めぐりでは、郷土の歴史に触れ、実感のある学習をすることができました。



関連する単元

- ・3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・3・4年生－社会「身近な地域や市（区・町・村）の特色ある地形」
- ・4年生－社会「郷土に伝わる願い」
- ・5年生－社会「我が国の国土環境」
- ・6年生－社会「我が国の歴史」
- ・共通－総合的な学習の時間
- ・共通－道徳「集団や社会とのかかわり」



子どもたちの広場

- ◎最初はインターネットで調べることでした。縮尺とか等高線、地図記号、方位を調べました。社会科の勉強をして、これくらい楽しいなあ、と思ったことはありませんでした。
- ◎明治43年（1910年）に大洪水がありました。県全体で死者320名、けが34名、行方不明者40名など、大きな被害を出しました。菅原寅吉という人は、洪水で堤防がくずれたのをなおしている最中に、だく流にのまれて亡くなりました。これから、北上川を大事にしていきたいです。



先生の声

地域を題材とするものなので、教科書も何もないところから教材を生み出すという難しい作業でしたが、回数を重ねていくうちに確かなものになっていくのが、子どもたちの反応からつかめるようになってきました。

子どもたちの「北上川のことがよくわかった」といった声を聞くと、本当にこの教材（単元）を開発してよかったと思うこのごろです。

指導者の皆さん、ぜひ地域の川の歴史をひも解いて見てください。子どもたちは多くのことを学ぶはずですよ。